

ドイツ語の補足文（Ergänzungssätze）の概要

ドイツ語の「Ergänzungssätze」は、主文を補足する従属文（Nebensätze）の一種です。この文法構造を理解することは、複雑な文章を作る上で非常に重要です。

従属文の基本ルール

- 従属文では、**動詞の活用形が文の最後に置かれます**。
- 主文とはコンマで区切られます。

1. 平叙文における従属文

「～ということ」や「～かどうか」を伝える場合に使います。

- 「～ということ」を意味する場合は、接続詞として **dass** を使います。

Ich weiß, **dass** er sehr viel Geld **hat**.

(彼がとてもお金持ちであることを私は知っています。)

- 「～かどうか」を意味する場合は、接続詞として **ob** を使います。

Ich weiß aber nicht, **ob** er glücklich **ist**.

(しかし、彼が幸せかどうかは私にはわかりません。)

2. はい／いいえ疑問文を間接的に伝える場合

元の質問がはい／いいえで答えられる場合、接続詞として **ob** を使って間接疑問文にします。

- Weißt du, **ob** Herr Gans verheiratet **ist**?

(ガンズさんが結婚しているかどうか知っていますか？ / (元の質問: Ist Herr Gans verheiratet?))

- Kannst du mir sagen, **ob** Gerd zur Party **kommt**?

(ゲルトがパーティーに来るかどうか教えてくださいませんか？ / (元の質問: Kommt Gerd zur Party?))

3. W-質問を間接的に伝える場合

元の質問が「W-Frage」（**Wo**, **Warum**, **Was**など）である場合、その疑問詞をそのまま接続詞として使います。

- Weißt du, **wo** unser Lehrer **wohnt**?

(私たちの先生がどこに住んでいるか知っていますか？ / (元の質問: Wo wohnt unser Lehrer?))

- Kannst du mir sagen, **warum** er das **macht**?

(なぜ彼がそれをしているのか教えてくださいませんか？ / (元の質問: Warum macht er das?))

4. 不定詞文（Infinitivsätze）

これらは「Ergänzungssätze」とは少し異なり、動詞の活用形を持たず、動詞の不定形（**zu + Infinitiv**）で文が終わります。

- Er weiß, sich **zu helfen**.

(彼は自力で助けを求める方法を知っている。 / (直訳: 彼は自分自身を助けることを知っている))

- Ich hoffe, die Prüfung **zu bestehen**.

(私は試験に合格することを望んでいる。 / (直訳: 私は試験に合格することを願っている))